**⑥　経済的繁栄**

日本の**国家安全保障戦略**（2013年）：国益②

また、経済発展を通じて我が国と我が国国民の更なる【　繁栄　】を実現し、我が国の平和と安全をより強固なものとすることである。そのためには、【　海洋　】国家として、特にアジア太平洋地域において、自由な交易と競争を通じて経済発展を実現する【　　自由貿易　　】体制を強化し、安定性及び透明性が高く、見通しがつきやすい国際環境を実現していくことが不可欠である。

→分けてみてく

**Ⅰ．繁栄と安全保障**

１．政治と経済の関係　カー『危機の二十年』（原書初版1939年）

　　「【大砲　】（軍備）か【　バター　　】（福祉）か」という問いは間違っている。

→トレードオフの関係

→足すと０になる

→トレードのオフの関係がある程度あるのは事実だが、この問題にフォーカスするのは見当違い

２．富と軍事力　ケネディ『大国の興亡』1993年（原書1987年）

①軍事力を支えるには【富】が必要、【富】を獲得して守るためには軍事力が必要

→軍事力は国家の繁栄を支えて、富はそれと補完的な関係にある

→軍事力が必要

②富を築くことをさしおいて、国の財源を【軍事】計画にばかりあてていれば、国力は長期的にみて衰えることになる

→1980年代ソ連、経済が伸びてないのに軍事を拡張していた

→アフガンへの進行、しかし、裏で行われる産業の高度化(インターネットなどの産業)についていけなかった

→過剰拡張→経済の疲弊→アメリカについていけなくなって、冷戦が終わる

→富が気づけ続ければ、大砲も、バターもということになる

1. 安全保障（自国の生き残り）への【補完】的役割としての経済的繁栄

→経済がないと、安全保障はお粗末になる

　　　【　軍事　】的潜在力としての富（GNP）の増大→【　　軍事力　】の強化

1. 安全保障と経済的な繁栄という二つの目標が衝突する場合　常に【　前者　】が勝つ

→前者とは狭い意味での安全保障（自国の生き残り）

**Ⅱ．商業的平和主義**　　リベラリズム、世界にプラスの影響を与えることを前提に

→こいつらポジティブ

1. 古典的著作：スミス『国富論』（原書1776年）

→アダムスミス、原書出版年は象徴的→近代の始まり

●近代という時代区分の重要性

1. 市民革命、1776年アメリカ独立革命
2. 産業革命、蒸気機関、ジェームズ・ワット
3. 商業と製造業が国内の人びとを【戦争】状態から開放

→ネットワークの構築→商業にハマり、戦争状態を緩和

2)【自由放任】主義：個人の自己利益の追求が「みえない手」に導かれて、結果として意図せざる公共の利益を推進する。　自由市場、自由貿易　利益調和説

→レッセフェール、フランス語

→最終的には社会の利益に到達して、一挙両得の状態が起きる

→みんなの利益が自然に調和

→「みえない手」→ 価格、需要と供給、調整メカニズム、自動調整

　２．1850年ごろのイギリス　産業革命の完成、自由民主主義と資本主義は自由主義

政治と経済の自由が拡大していく時期→産業革命が起きて百年後にはどうなってんの？

1. 【自由貿易】体制を確立：東インド会社の貿易独占権や、穀物法と航海法を廃止

→Free Trade、より自由な貿易

→それまでは保護貿易主義的な要素が強かった

→産業革命で商品の市場がいっぱい、海外に輸出したい→経済的競争力のあるイギリスが自由貿易を唱える、パックス・ブリタニカ

1. リチャード・コブデン：世界は【貿易】を通じて平和になる。

→世界を平和にしてくれるリベラリズム的な考え方

1. エンジェル『大いなる幻想』（原書1909年）　ノーベル平和賞（1933年）
   1. 主張：戦争が国家の【　経済的利益　　　　】を推進することは幻想になった。
2. 論理：【　　軍事力　】によって他国の富と商業を略奪して豊かになるのは不可能

→産業革命は戦争のやり方にも影響を与えてくる

→兵器の大規模化

→戦争をやっても利益になんねんじゃね？→戦争やめよー

→上記の世に解釈された、、、→WW1が勃発

→エンジェルが嘘つき？

1. 1914年、第一次世界大戦が勃発　戦争が経済的に【　　非合理　】的であることを証明

→多くの国が疲弊

経済的相互依存が戦争を【　無益　】なものにしたと主張していたのであって、【　不可能　　】にしたと言っていたわけではなかった。彼は、戦争が人びとの【　無理解　】によって起こりうると考えていた。

→現状として戦争は利益→みんな理解してない馬鹿

→理解を上げていこう！→そうすれば平和になる

→ユネスコ→これもこれに基づいている

→リアリズムの返り討ちに、、、、

**Ⅲ．リアリストからの反論**

1. 因果関係の誤り　ブレィニー『戦争と平和の条件』（原書1973年）

→ブレイにーは豪州人で、リアリスト

→結果と原因を逆に考えている

→文化的相互理解、相互依存をリベラルたちは考えていたが、、、

→「平和だから」という前提がある

　【　平和　】　⇒　思想や民衆や商品が国境をこえて流出しやすかった。

→マックスウェーバーのプロテスタンティズムのやつ→因果関係の間違っているじゃね？

→原因が結果よりも前に出ちゃってるやつ

２．経済的相互依存による軍事紛争の促進

　　ルソー：相互依存は、和解や調和ではなく、【　不信感　　】と【　　不一致　】を生み出す。

→交流が密な国、近隣諸国、で戦争が起きやすい

→ex 韓国と北朝鮮

→日米の経済関係

国家戦略として経済的な【　　自給自足　　】政策を唱えていた。

→現代で考えたら、まあありえない

→江戸時代の平和→自給自足の状態、植民地化回避、外国との鎖国

→リアリスト→人々の依存関係は摩擦を生むぜ！

**Ⅳ．日本**　 戦後

１．「**吉田ドクトリン**」　吉田茂：1940年代前半・50年代後半の内閣総理大臣

→吉田茂というやつがかんがえたやつ

1. 【　　日米安保　　】：アメリカとの同盟関係を基本とし、それによって安全を保障する。
2. 【　軽武装　　】：したがって、自国の防衛力は低く抑える。

→日米同盟のおかげで低く抑えられる

③【　　経済中心　　】：そして得られた余力を経済活動にあて、通商国家として活路を求める。

→日本は富が少なかったという背景

２．基本政策　『白書』234

　①【　専守　】防衛：憲法の精神に則った【　受動　】的な防衛戦略の姿勢

1. 【　軍事大国　　　】とならないこと：他国に脅威を与えるような国
2. 【　非核　】三原則：【　核兵器　　】を持たず作らず持ち込ませず

→しかし、はたから見ると、軍事力をアメリカに任せて、経済上昇に邁進しているように見える

３．防衛関係費　『白書』255-256

　各国との比較　ＧＤＰ（【国内総生産】）に対する比率

日本はGDPの1％だけしか国防費に使っていない、敗戦国のドイツもそう

→アメリカはそれに対してGDPの3.4%も使っている！やばい

→この数字からも日本少なくね？と周りから言われている(偏見もあるが)

４．国家安全保障戦略　『白書』463, 466

　Ⅱ1：国家アイデンティティ：【　経済　】大国・【　海洋】国家・【　平和　】国家

　　他国との貿易・投資関係を通じて、国際社会の【　安定　】と【　反映　】の実現に寄与

Ⅳ5：TPP、日EU・EPA、日中韓FTA、RCEP等の【　　経済連携　　】の取組を推進

→アジアの活力と繁栄の強化

◾️質問コーナー

●商業的平和主義→自由貿易を唱えるのは本当に経済力のある国？アメリカとか別れてたじゃん！

→産業の段階、→より高度な経済段階に行きたいときに保護貿易から自由貿易をやりたいというふうになる、

保護貿易とは、発展に備えるための武器→現在の日本のためになっている

　自由貿易は全部の国を幸せになるわけではない→レトリックで言われることも、、、

●非核三原則、「作らせず」がない！他国への不拡散

→ここでは、防衛政策で何をすべきかをのべている

→対立が解消するには無知を解消しよう←→対立が先に来ている(リアリズム)

ドイツとかイタリア→植民地をくれ！→利益調和がうまくいくのは時と場合

●リベラリズム→相互依存がどうして平和に繋がる

→人々の交流を深めていけば大丈夫！的な発想

●ブレイニー

平和が相互依存を作ったんだよ！！